

# 入会のご案内

本会には、個人会員と団体会員があります。  
本会の目的に賛同する個人または団体が会員になれます

## 個人会員の入会申込

- ・化学会ホームページからお願い致します。
- ・WEB 入会：<https://mypage.csj.jp/application.php>

## 団体会員の入会申込

- ・会員担当(会員 G)へお問い合わせください。
- ・E-mail: [member@chemistry.or.jp](mailto:member@chemistry.or.jp)
- TEL: 03-3292-6169

## 個人会員

会員種別	入会金 *1	年額	配布会報
個人正会員	1,000 円	9,600 円	化学と工業
シニア会員	1,000 円	6,000 円	化学と工業
学生会員		6,000 円	化学と工業
教育会員		7,200 円	化学と教育
教育学生会員		4,800 円	化学と教育
ジュニア会員		3,000 円	会報の選択

### 特典

- ・会員種別での会報配布
  - ・論文誌の講読(含む電子版)
  - ・年会やフェスタへの参加
  - ・当会が主催・共催する行事への割引参加
  - ・部会・ディビジョンへの参加
  - ・電子メールによる最新情報配布
  - ・提携ホテル、レンタカー、書籍等の割引
- \*1: 入会金 1000 円を免除中(2013 年 7 月入会まで)

## 法人正会員

- ・年間会費は、1 口:25,000 円で 4 口以上
- 法人正会員には、口数に応じて、会報、論文誌の送付・アクセス権付与、年会への参加、化学会館の利用などの特典がありますが、基本的に法人会費は、当会の活動への支援であり、我が国の化学の活性化と進歩に資するためのものであることをご理解ください。

## 公共会員

- ・公共会員(学校、公共図書館、公共研究機関)の年間会費は、配布を受ける会誌により異なります。
- ・詳細は上記会員 G へお問い合わせください。

## 2012 年 会費一覧

- ・[http://www.csj.jp/kaiin/membership\\_dues\\_2012.pdf](http://www.csj.jp/kaiin/membership_dues_2012.pdf)

## 電話でのお問い合わせ

総務部総務(代表)	TEL 03-3292-6161 FAX 03-3292-6318 以下、局番共通
入会のご案内	TEL 6169 FAX 6317
年会のご案内	TEL 6163 FAX 6318
会議室利用の申込み	TEL 6161 FAX 6318
論文誌購読	TEL 6169 FAX 6317
広告掲載のご案内	TEL 6165 FAX 6319
支部	
北海道支部	TEL 011-706-3507
東北支部	TEL 022-224-3883
関東支部	TEL 03-3292-6163
東海支部	TEL 052-231-3070
近畿支部	TEL 06-6441-5531
中・四国支部	TEL 082-420-0037
九州支部	TEL 092-642-3574

各種申し込みはホームページ上でできます。  
<http://www.csj.jp/>

## 化学会館へのアクセス



### 最寄駅

- JR 御茶ノ水駅  
(総武線、中央線)
- 地下鉄御茶ノ水駅  
(丸の内線)
- 地下鉄新御茶ノ水駅  
(千代田線)
- 地下鉄神保町駅  
(三田線、新宿線、半蔵門線)



# 公益社団法人 日本化学会

## 目的

本会は、化学に関する、学術の進歩・技術の発展・産業の振興・知識の普及、並びにそれらを担う人材の育成を図り、もって社会の発展に寄与することを目的とする。(定款第3条)

## 沿革

1878年(明治11年)	化学会創立、翌年、東京化学会と改称
1898年(明治31年)	工業化学会創立
1921年(大正10年)	東京化学会が日本化学会と改称
1948年(昭和23年)	日本化学会と工業化学会が合併
1991年(平成3年)	化学会館竣工
2003年(平成15年)	創立125周年記念
2011年(平成23年)	公益社団法人に移行

## 役員

代表理事	会長	玉尾皓平(理化学研究所)
代表理事	筆頭副会長	渡辺芳人(名古屋大学)
代表理事	常務理事	川島信之(日本化学会)
業務執行理事	副会長	浦田尚男(三菱化学株式会社)
	同	尾嶋正治(東京大学)
	同	下井 守(東京大学名誉教授)
	同	蜷川洋一(株式会社クラレ)
	同	原田 明(大阪大学)

理事 19名 監事 4名

所在地 東京都千代田区神田駿河台1-5、全国に7支部

会員数 約31,000名(平成24年2月末現在)

常勤職員 33名(平成24年2月末現在)

予算規模 年間約10億円

## 主な事業

研究集会の開催(年会、シンポジウム、講演会他)、表彰

出版(機関誌、論文誌、ニュースレター、書籍)

教育・普及事業(初中等・高等教育、技術者教育、普及・啓発)

国際交流、産学・産産連携、環境安全推進

男女共同参画推進、政策提言、調査・研究、受託事業

# 春季年会

化学に関係するあらゆる学問領域・分野の研究者が一堂に会する講演件数約 6,000 件、参加者数約 8,500 名の規模を誇る国内最大級の学術集会

研究成果を発表し、情報交換を行う『アカデミック・プログラム』および産学・産産交流を目的とした『アドバンス・テクノロジー・プログラム』を中心に、『アジア国際シンポジウム』、『化学教育フォーラム』、『市民公開講座』など、毎年多彩なシンポジウムが企画されます。また、分析機器や化学図書などの展示会も併設されます。



ノーベル化学賞受賞者

# 出版



## 機関誌

「化学と工業」一般会員向け  
「化学と教育」教育会員向け



## 論文誌(英文)

**Bulletin of the Chemical Society of Japan**  
80 年以上の歴史をもつわが国の化学を代表する英文論文誌

**Chemistry Letters**  
世界最速ジャーナル(投稿～公開の最短記録は 7 営業日)

**The Chemical Record 英文総合論文誌**

**Chemistry - An Asian Journal アジアの連合誌**

## 書籍

化学便覧 基礎編、応用化学編(丸善)  
実験化学講座(丸善)  
CSJ カレントレビュー(化学同人)  
他多数



# 世界化学年

2011 年は国連が定めた世界化学年でした。  
“Chemistry—our life, our future”の統一テーマのもと、世界各国が連動して化学に関する啓発・普及活動を行いました。  
日本の登録イベントは世界第 3 位の 144 件でした。

## 化学会における主な活動

- 1 月 18 日 The IYC International Women's Networking Event in Japan
- 9 月 28 日 世界化学記念シンポジウム
- 11 月 19 日～27 日 『きみたちの魔法—化学「新」発見』展\*
- 12 月 17 日～18 日 科学・技術フェスタ in 京都



## 教育・普及

### 人材育成と理科離れの防止

化学グランプリ

国際化学オリンピックへ代表派遣

普及活動

夢・化学-21

出前授業・化学クイズショー・実験教室

化学普及書の発行

教育政策提言

各支部実験教室・講演会

化学だいすきクラブ

小・中・高生対象のニュースレターなど

2011 年第 43 回国際化学オリンピックトルコ大会

Chemistry Olympiad

8 July 2011 • Ankara • TURKEY



## 産学連携

### CSJ 化学フェスタ 日本化学会秋季事業

産学官連携の実質化のための新しい事業として、『最先端の化学と化学技術に関する産学官の交流深耕』、『産学官による化学のプレゼンス』、『社会への発信』を目指す

産官学交流企画・企業 R&D 企画・学生ポスター・公開企画

### 産学交流委員会

技術開発フォーラムなどを企画・実行

### R&D 懇話会

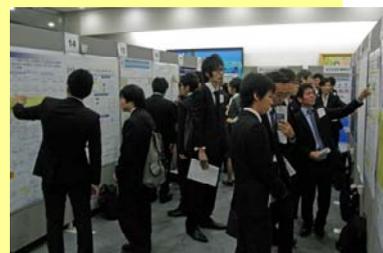
企業所属会員による勉強会(エレクトロニクス、基盤技術、ライフサイエンスなど)

### 化学技術基礎講座

高分子化学、電子部品・材料の物性化学、有機合成化学の基礎など

### 就職支援

大学・企業人事担当者交流会、求人・求職案内



## 国際交流

### 環太平洋国際化学会議(PACIFICHEM)

1984 年より 5 年に一度ホノルルで開催

日・米・加・韓国・中国・豪州・ニュージーランドの化学会が共催

2010 年 12 月開催(第 6 回)では世界約 60 ヶ国 12,700 人が参加

次回は 2015 年開催



### 国際純正・応用化学連合(IUPAC)

世界約 80 ヶ国が参加する化学の国連。化合物の命名、原子量の決定他

日本化学会は賛助・個人会員の事務局

2012・2013 巽和行 名大教授が会長



### アジア化学会連合(FACS)

アジアの化学会の連合(加盟 28 ヶ国)、日本化学会は主要メンバーの 1 つ

CS3 日・米・英・独・中の参加 5 ヶ国化学会が、助成団体とパートナーを組み、

世界が直面する喫緊のテーマについて討議。白書にまとめ政府や会員に提言

その他、米国、英国、ドイツ、中国、韓国などの主要化学会と交流

